

・今回のMtgは、チームItoの2人に対して、以前は伝えるのに意気込みが必要だったことも、大分ナチュラルに伝えられるようになったと感じた。だから、2人にもそうであってほしいと思ったし、正しいかどうかはわからないけど、自分が「こうしてほしい」と思ったことはストレートに伝えたつもりだ。

でも、Mtgの最後に陽子さんが「無難だった」と表現されたように、ものすごく伝わった感覚も、逆に伝わらなかった感覚もなかった。事前に話したいと思って準備していた内容は全て話せたし、途中誰かが遠慮したり、言葉を呑み込む場面もなかった。

では、達成感があったか？と聞かれると、「はい」とは即答できなかった。

その答えが、陽子さんが最後にフィードバックしてくれた「ぶつりかり合ってる感じがしなかった」なのだろう。

合宿以降、「踏み込む」の次のステップとして、Itoメンバーには「押し付け」を練習してきたつもりだけど、その押し付けを相手に伝えるハードル、そして、伝わったとして、そこから行動を起こすまでに次のハードルがある。すぐに行動できればとっくにやっている訳で、本人が自覚してるかしてないかは別として、行動できないのには理由が必ずある。

陽子さんから、「とは言うけど、それはさあ・・・」と、行動できない理由を伝えるコミュニケーションがみんなにはないよね、これができるといいよねとアドバイスをもらった。事前に合宿ブランの投稿にも書かれていたが、相手が100%善意

で薦めてくれることに対して、Noと言うのは勇気がいるし、その理由に向き合うことも意味があるのだという。

私は言い訳されるのが嫌いなので、自分も極力言い訳をしたくないと思っている。だから、相手の言うことがよほど間違ったことでなければ、一旦は素直に受け止めたいという気持ちがある。

でも、その後行動しなければ、その場での「うん」は表面上の返事になってしまう訳で、実際にやってみようと思ったら、具体的に何がハードルなのか、何ができない理由なのかが、出てくる。

その場で「うん」と返事しておきながら、その後行動を起こさず(起こせず)終わってしまうより、その場の返事はNoだったとしても、そういう話ができの方が、よっぽど前に進むよなあ。ちょうど今回のMtgで足りていないのも、こういうコミュニケーションだったのだと思った。

次回合宿のテーマは、「わからないことを自覚する」に決まった。わからないことを自覚することが、思考の枷だったり、前に進めない原因に気付くきっかけになると思うし、そこに新しいコミュニケーションが生まれることを体感したいと思う。

今回も遅くまでありがとうございました！！

(E.M 40代女性 埼玉県)